



2017年7月13日に開催された「MEIJI SPORTS スペシャル」と銘打った北京大との卓球交流イベントの様子。駿河台キャンパス・リハビリタワー1階に設置された特設会場につめかけた明大生ら約1000人が見守る中、選手の力のこもったプレーに歓声が上がると、盛況だった。

前へ! Vol.5

明大アスリート



明治大学卓球部

森蘭 政崇
Masataka Morizono

政治経済学部4年
(青森山田高校出身)
世界ランキング
(2017年9月時点): 58位

紫紺の旗のもとに集まった若きアスリートを紹介する、「前へ! 明大アスリート」。第5回は、東京五輪世代の有望株、卓球部森蘭政崇選手にインタビュー。学生の国際総合競技大会である2017年8月開催の「第29回ユニバーシアード競技大会」では、シングルスで2連覇、またダブルスとの2冠を達成するなど、華々しい活躍を見せた。

Q1 卓球をされてきた経緯を お聞かせください

実業団選手だった父親の影響で、4歳で卓球をはじめ、青森山田中学に進学しました。親元を離れた寮生活の中で、それまではやらされていると感じていた卓球と向き合い、努力した分だけ結果もついてくるようになりました。そこから卓球を楽しいと思えるようになって、これまでやってこられました。

Q2 明治大学への 進学理由は?

明治がとびぬけて強かったので、強くなるには強い人とやらなければという思いがありました。同じ青森山田から進学した神巧也さん(2015年政治経済学

Q3 明治大学での4年間で 感じたことはありましたか?

卓球部で感じるのは組織力の強さですね。歴史と伝統ある部活ですし、今は兒玉圭司総監督を起点に、監督やOB会の皆さんなど、たくさんの方々のおかげで卓球に打ち込むことができます。

大学生活の中で感じるのも人とのつながりだと思っています。普段は卓球競技の狭い世界にいるので、クラスの仲間と話を就職活動や高校時代の話などを

聞いて、いろいろな生き方があるのだなと実感します。こういったつながりがこれから社会に出たときにも役立つことだと思っています。

Q4 先日開催された 「MEIJI SPORTS スペシャル」はいかがでしたか?

僕が参加しているドイツのブンデスリーグの会場と似た雰囲気、最高に面白かったです。卓球は物音を立てずに静かに見守るものだという風潮があります。ストレスなく盛り上がりながら一体感を感じられるところ、スポーツ観戦の醍醐味なのではないかと思っています。学生向けのイベントでしたが、卓球界にとっても刺激的な試みだったのでないかと思っていますね。

Q5 卒業後の夢や目標を お聞かせください

最終的な目標は当然オリンピックだと思っています。2020年東京大会が、直近の最大の目標です。その後も自分の卓球人生は続いていきますが、目標とするのは同じ明治大学の先輩の水谷隼さん(2013年政治経済学部卒業)と丹羽孝希さんですね。二人とも世界ランクが1桁なので、追いつきたいと思っています。

PROFILE

明治大学卓球部

1931年創設。五輪メダリストや世界・日本で活躍するトップ選手を多数輩出する名門。昨年度は春秋のリーグ戦に加え、全日本大学総合選手権(団体の部)優勝というグランドスラムを達成。2017年度、春季リーグ優勝は惜しくも逃したものの、秋季リーグ連覇を達成した。

ホームページ <http://www.meiji-tt.net/>